



# 農業農村整備

# かごしま



## INDEX

### ●新年のご挨拶

- 会長 宮路 高光 ..... 1
- 鹿児島県農政部長 松園 英昭 ..... 2
- 鹿児島県農政部農業土木技監 玉泉 利幸 ..... 3
- 全国水土里ネット会長会議顧問・参議院議員 進藤 金日子 ..... 4
- 全国水土里ネット会長会議顧問・参議院議員 宮崎 雅夫 ..... 5

### ●活動情報

- かごしま水土里ネット女性の会が誕生 設立総会と研修会を開催 ..... 6
- 令和4年度 第2回理事会を開催 ..... 8
- 令和4年度 第2回監事会及び監事監査を実施 ..... 9
- 令和4年度 土地改良区連絡会議を開催 ..... 10
- 各事業推進協議会と合同で要請活動を実施 ..... 11
- 九州農業農村整備事業推進協議会及び土改連九州協議会が要請活動を実施 ..... 13
- 第44回全国土地改良大会 沖縄大会に参加 ..... 14
- 農業農村整備の集いに参加 ..... 15
- 農業農村整備優良地区コンクール「川南地区環境保全会」が選定審査会に出席 ..... 16
- 第27回全国棚田(千枚田)サミット・滋賀県高島市で開催 ..... 17
- 水土里サークル活動シンポジウムが開催 ..... 18

- 九州「農地・水・環境保全」フォーラムin大分が開催 ..... 20
- 未来へつなごう!ふるさとの水土里子ども絵画展2022 本県児童が入賞 ..... 21
- 令和4年度 換地計画実務研修会を開催 ..... 22
- 令和4年度 標準積算システム運用説明会を開催 ..... 23
- 点群ソフト操作研修会を開催 ..... 23
- 令和4年度 鹿児島県水土里情報システム運用説明会を開催 ..... 24
- 県内各地で施設補修技術研修会を開催 ..... 24
- 令和4年度 第3回技術力向上職員研修会を開催 ..... 25

### ●政策情報

- 令和4年度第2次補正予算が成立、令和5年度当初予算概算が閣議決定 ..... 27

### ●お知らせ

- 「令和4年度 電力価格高騰対策土地改良区緊急支援事業」の創設について ..... 30
- 第65回通常総会の開催について ..... 30
- 各地域土改連連絡協議会の開催について ..... 30
- 水土里ネットの更新情報(設立・解散、理事長の変更等) ..... 30

### ●コラム「明日・農・夢」

- ..... 31

### ●会議・研修会情報

- ..... 32

### ●編集後記

- ..... 32



# 謹んで新年のお慶びを申し上げます。

水土里ネット鹿児島(鹿児島県土地改良事業団体連合会)

他職員一同 令和五年一月	〃	〃	監事	代表監事	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	理事	専務理事	〃	副会長	会長
	浜脇	堀野	岩切	永谷	竹田	八板	永野	東	町田	永吉	上野	東	松園	堀	川添	本坊	宮路
	吉嗣	義文	正信	岩男	泰典	俊輔	和行	靖弘	廣志	弘行	俊市	孝一郎	英昭	洋一郎	健	輝雄	高光



本部



鹿児島事務所



北薩事務所



大隅事務所



曾於支部



熊本事務所



大島事務所



徳之島支部



沖永良部支部





# 新年のご挨拶

## 新年のご挨拶

水土里ネット鹿児島  
(鹿児島県土地改良事業団体連合会)  
会長 宮路 高光



新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大からおよそ3年が過ぎましたが、未だ終息を見ない中で新年を迎えることとなりました。

皆さま方には、かねてより本県の農業・農村の振興や本会の組織運営に対しまして、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や歴史的な円安により、原油や原材料、食料品価格が高騰し、農林水産業や食品産業に大きな影響を及ぼしました。そして、これらの情勢を受けまして、我が国の食料安全保障の強化に向けた取り組みが始まり、農政の基本となる「食料・農業・農村基本法」の見直しに向けた検証も始動いたしました。

このような中、昨年7月の参議院選挙では、進藤金日子議員が2期目の当選を果たし、宮崎雅夫議員とともに「車の両輪体制」がこれまで以上に強化され、さらなる農業農村整備事業の推進に期待を寄せているところでございます。

また、県におきましては、「農業の高付加価値を推進する競争力強化対策や担い手への農地の集積・集約化」、「自然災害の激甚化や施設の老朽化に対応する国土強靱化対策」、「農業・農村の多面的機能の維持・発揮のための地域共同活動への支援」を重点施策に位置づけ、我が国の食料供給基地として、「食料安全保障の強化」と「農業農村の持続可能な成長」を推進しているところでございます。

他方で、土地改良区におきましては、新たな会計制度の本格運用や、女性理事登用にに向けた取り組みも始まりました。

さらに、昨年11月に設立されました、「かごしま水土里ネット女性の会」におきましては、職域や地域を超えた女性同士が活発に交流していただくことで、本県の農業農村の振興に新たな風を吹き込んでいただけるのではないかと期待をしております。

本会といたしましても、各種施策を実現するため、農業農村整備事業の推進に積極的に関与しながら、さまざまな事業活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので、関係皆さま方には引き続き、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、昨年10月に開催された「全国和牛能力共進会鹿児島大会」では、鹿児島県代表が9つの部門中6部門で見事日本一となり、大変明るいニュースとなりました。本年もこのような明るい話題が一つでも多く生まれ、また皆さまにとって平穏な実りある一年であるよう、ご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



# 新年のご挨拶

## 令和5年 新年のご挨拶

鹿児島県農政部長  
松園 英昭



令和5年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、かねてから本県の農業農村振興施策の推進に御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、10月に本県で開催された全国和牛能力共進会（第12回大会）において、「鹿児島黒牛」が9部門中6部門で首席、種牛の部で最高賞の内閣総理大臣賞を獲得し、前回大会に続き、和牛日本一の栄冠に輝きました。また、8月に京都府で開催された全国茶品評会の普通煎茶10kgの部において、「南九州市」が最高賞の産地賞を受賞し、19年連続して本県が同賞を受賞するなど、本県農業の力強さを改めて全国に明示することができ、関係者の皆様の御尽力とたゆまぬ御努力に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

一方で、9月に県本土に上陸した台風第14号等によって、農作物や農地、農業用施設に多くの被害が生じたほか、サツマイモ基腐病や高病原性鳥インフルエンザなどが発生し、昨年は、農業被害も甚大となりました。

この他、コロナ禍の影響が長期化する中、円安等による燃油や肥料・飼料等生産資材の高騰などに伴い、多くの生産者が厳しい状況に直面しております。

こうした状況を踏まえ、県では、被災箇所の早期復旧や、排水対策、土層改良等のサツマイモ基腐病対策に総合的に取り組むとともに、生産資材等の価格上昇分及び農業水利施設を管理する土地改良区の電力価格高騰分の一部を支援するなど、農家経営の維持・安定化及び物価高騰の影響緩和に資する施策を切れ目なく展開しているところです。

また、農業の稼ぐ力の向上を図るとともに、将来の基盤をしっかりと築いていくため、①人づくりと地域づくりの強化、②生産・加工体制の強化と付加価値の向上、③販路拡大と輸出拡大を3本柱として、新規就農者の確保・育成やスマート農業の推進、県産農畜産物のブランド力の向上など、各般の施策に引き続き全力で取り組んでまいります。特に、農業農村整備事業につきましては、「競争力の高い農業」、「安全な農村」、「暮らしやすい農村」の実現を目指し、大隅地域や奄美地域における大規模畑地かんがい事業等の生産基盤の整備、農村地域の防災・減災対策や土地改良施設の長寿命化対策のほか、農地や農業用施設等の保全を行う水土里サークル活動への支援等に積極的に取り組むことで、本県の特性を活かした農業の生産体制づくりのほか、我が国の食料供給基地として食料の安定供給の確保と農業所得の向上等に努めてまいります。今後とも、皆様の一層の御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本年が農業関係者はじめ、県民の皆様にとりまして実り多き1年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

## 新年のご挨拶

鹿児島県農政部農業土木技監  
玉泉 利幸



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

貴会には、かねてから本県の農業・農村の振興及び農業農村整備の推進に御理解と多大な御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、9月に発生した台風第14号等により、農作物や農地、農業用施設に多くの被害が生じました。被災されました皆様方には、心よりお見舞いを申し上げますとともに、復旧に際し、御尽力された関係者の皆様に対しまして御礼申し上げます。

さて、現在国では、新たな農林水産施策として『スマート農林水産業等による成長産業化』、『農林水産物・食品の輸出促進』、『農林水産業のグリーン化』、『食料安全保障の強化』を4本柱に掲げ各種取組を展開しております。

また、これらの施策を推進していくうえで新たな課題となっている、世界的な食料情勢や気候変動、海外の食市場の拡大等に対応して、食料安定供給の基盤強化を図る観点から、制定後約20年が経過した『食料・農業・農村基本法』の総合的な見直しに向けた検討を開始しております。

県においては、このような国の動向も注視しながら、引き続き、効率的かつ安定的な農業経営体の育成や農業生産性の向上を図るため、水田の大区画化や汎用化、畑地かんがい施設の整備等を推進し、農業の「稼ぐ力」を引き出す取組を展開することとしております。

特に、担い手へ農地の集積・集約化を支援する農地中間管理機構と連携した農地整備事業や多様な作物の計画的・安定的な生産・出荷が可能となり、農家の所得向上と地域経済の活性化につながる大規模畑地かんがい事業は、県の重点施策として積極的に推進してまいります。

また、頻発化・激甚化する豪雨等に対応するため、農業・農村の防災・減災対策や農業水利施設等の長寿命化対策を進めていくとともに、中山間地域等の活性化に繋がるきめ細やかな基盤整備も促進するなどし、本県農業の成長産業化を目指してまいりますので、皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

最後に、土地改良事業団体連合会、市町村及び土地改良区の皆様におかれましては、会員や関係機関への技術支援、農業水利施設等の適正な維持・管理等、様々な面でのより一層の御活躍を期待しております。

今年1年が、皆様方にとりまして、実りある、また大いなる発展の年となりますことを御祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。



# 新年のご挨拶

## 新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員  
進藤 金日子



新年、明けましておめでとうございます。鹿児島県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円(TPP等対策:760億円、国土強靱化5か年加速化対策:817億円、食料安全保障対策:100億円)が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」(国内生産力、輸入力、備蓄)の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます。新年のご挨拶にさせていただきます。

## 年頭のあいさつ

全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員  
宮崎 雅夫



鹿児島県土地改良事業団体連合会会員ならびに関係の皆様方へ謹んで新年のお慶びを申し上げます。  
旧年中は、私の国政活動に対し、皆様方より多大なるご支援とご指導を賜りましたことに、衷心より感謝申し上げます。また、皆様方におかれましては、日頃より、地域の水と土を守るため、土地改良施設等の適正な管理や土地改良区の円滑な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

また、昨夏には、同僚の進藤金日子参議院議員も皆様方の絶大なるご支援によって、みごと再選の栄に輝くことができました。皆様方と共に喜びを分かち合い、併せて感謝の意を表させていただきます。

さらに、私も農林水産大臣政務官を昨年8月まで勤めさせていただきましたが、この間、多くのご要望等をお受けし、それぞれの地域の課題解決に向けて、農水省の職員と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項も含め、昨年12月2日に可決成立した令和4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円（公共:3,191億円、非公共:5,016億円）の予算が措置され、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円が計上されており、また、近年の農業農村整備事業予算は、当初と補正を合わせて6,000億円台まで回復しておりますが、これから国会で議論される新年度予算においてもこの水準を維持できるよう、引き続き努力してまいります。

さて、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで国民食料の6割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあつて、その食料安全保障の確立に向けては、しっかりと取り組んで行くことが求められており、そのために必要な、効率的な農業生産基盤の整備・維持といった重要な役割は、土地改良が担っていると考えています。

私も、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、これからも現場主義に徹し、皆様のお声を国政に届けるためしっかりと努力してまいります。決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、鹿児島県土地改良事業団体連合会と会員各位ならびに関係機関の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、私の新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。





## かごしま水土里ネット女性の会が誕生 設立総会と研修会を開催



宮路会長の挨拶

11月11日、全国で32番目となる「かごしま水土里ネット女性の会」の設立総会が、県土地改良会館において開催され、県内水土里ネットと本会の女性職員ら41名が出席した。

開会にあたり、宮路高光・本会会長は、設立に向けたこれまでの尽力にお礼を述べ、「男女共同参画においては、あらゆる分野で女性活躍の場が広まっており、今後、地域ではさらに女性の力が必要。本県の水土里ネットにおいても、女性の皆さま方のお力をいただき、それぞれの地域で頑張ってもらいたい」と挨拶。

次に、参議院議員で都道府県水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫氏からのメッセージと、各県の水土里ネット女性の会から寄せられた祝電が披露された。

その後、議事に入り、事務局から提案された4つの議案はすべて原案どおり承認され、併せて、会長及び副会長が互選された。

また、東孝一郎・南薩土地改良区理事長及び堀洋一郎・本会専務理事が参与に指名された。

終わりに、代表に就任した小林布美子会長が、「現在、土地改良区では、貸借対照表の作成が義務化され、通常業務に加えて作業が増え、大変な毎日を過ごしている。もともと女性職員は少なく、女性同士で相談できる土地改良区も少ない。まずは土地改良に関わる女性同士が意見を交換しやすい場を作り、女性ならではの発想や感覚を農業農村の振興に活かしていけるよう、意見交換から始めていきたい。肩肘張らず

に気楽に参加できる、明るく、楽しい女性の会の活動をしていきたい」と挨拶した。

提出議案及び役員は、以下のとおり。

### 〈提出議案〉

- ・ 第1号議案：会の名称について
- ・ 第2号議案：会則の制定について
- ・ 第3号議案：令和4年度事業計画の決定について
- ・ 第4号議案：運営委員の選任について

### かごしま水土里ネット女性の会 役員名簿

役職名	名 前	土地改良区名等
1 会 長	小林 布美子	曾於南部土地改良区
2 副 会 長	東 光 代	川辺町土地改良区
3 副 会 長	木原 美枝子	伊佐市菱刈土地改良区
4 運営委員	前田 美祐貴	出水平野土地改良区
5 運営委員	五反田 幸子	湧水町栗野土地改良区
6 運営委員	加藤 里美	鹿屋市土地改良連合会
7 運営委員	井神 千尋	吾平町土地改良区
8 運営委員	稲付 一子	有明町上水流土地改良区
9 運営委員	後庵 優華	西之表市土地改良区
10 運営委員	前田 範子	鹿児島県土地改良事業団体連合会

任期：令和6年3月31日まで

続いて、研修会が開催された。

はじめに、東孝一郎参与が「女性自らが一歩前に意識を持って行動し、情報交換や意見交換を行う中で、光輝く鹿児島の女性の会として発展していくことを期待している」と挨拶した。

基調講演では、参議院議員で都道府県水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子氏の令夫人、進藤優貴子氏が「私が出会った土地改良の女性たち」をテーマに講演された。

全国でも先駆けて男女共同参画に取り組んだ、やまぐち水土里ネット女性の会初代会長を務めた、故藤井チエ子さんとの出会いや、日本のひなた水土里ネット女子会（宮崎県）への関わり、これから設立を目指す新潟県の取り組みなどを紹介していただいた。



そして、「毎年、九州の女性の会が持ち回りで意見交換をすれば、お互いにより刺激になるのでは」や、「男性と女性の脳のつくりは異なっている。女性が得意とする気配り、心配り、思いやりの心で、お互いさまの精神で、我を捨てて相手の喜ぶこと、和合の精神で活動に取り組んでほしい」と話された。

続いて、金内琴美・全国水土里ネット主査が「土地改良団体における男女共同参画について」をテーマに研修を行った。

まず、全国に広がるネットワークとして、女性の会の設立状況や活動事例、全国水土里ネット女性の会のグループ懇談での意見等が紹介された。それによると、働き続けたい水土里ネットにするためには、「性別にとらわれずさまざまな業務に携わっていくこと」や、「男女ともお互いフォローし合いながら仕事をしていくこと」等を特に意識して、職場環境や労働環境の整備に取り組む必要があること、また、農業委員会やJAでは以前から男女共同参画の取り組みが進んでいるが、土地改良ではひと昔前から全く進んでいない現状も示された。

そして、「性別にかかわらず個性と能力の発揮が求められており、『食料・農業・農村基本法』や『土地改良長期計画』においても女性参画はうたわれており、土地改良区の女性理事登用は2025年度までに10%以上が成果目標とされている。さまざまな課題はあるが、全国と各都道府県に設立された『水土里ネット女性の会』と連携し、世代、役職、組織を超えたネットワークを活用し、女性理事登用10%以上とあわせて、女性職員の登用を進めていこう」と説明した。

終わりに、「皆さんがどうしようか、できるだろうかと悩んでいるのなら、まずはやってみる、その波に乗るのが一つの手。自分には見えていなくても、案外周りの方には見えている。一步踏み出せば、必ず誰かが助けてくれる。自分で自分の可能性に蓋をしないでほしい」と、参加者にエールを送った。

参加者からは、「女性として何ができるのか、

何をしていきたいのか考えさせられる時間となった」、「女性活躍というワードばかりが先行しているように感じていたが、その先にギャップのないすべての人にとって働きやすい、過ごしやすい環境を目指しているという講演であったのがよかった」、「女性理事登用についてすごく悩んでいた。少しずつ何か行動を起こしてみようと思う。何か少しでも変わればと思った」等の意見が寄せられた。

なお、同会では、一緒に活動していく会員を募集しています。詳しくは、最寄りの運営委員、または水土里ネット鹿児島 総務部管理課へお問い合わせください。



進藤優貴子氏による基調講演



金内主査による研修



集合写真



## 令和4年度 第2回理事会を開催



宮路会長による挨拶

令和4年度第2回理事会が、12月13日、理事12名、代表監事1名、参与4名の出席のもと、県土地改良会館において開催された。

議案審議に先立ち、宮路高光会長は、出席へのお礼を述べ、「最近、コロナウイルス感染症が若干増えつつある。加えて、出水市で発生した鳥インフルエンザウイルスに関しては、県の職員の方も夜通し対応していただき、大変なご苦勞をされており感謝申し上げます。

本会においては、職員の皆さんの協力もあり、事業活動は順調に推移していることをご報告させていただく。本日はよろしくお願ひしたい」と挨拶した。

その後、8つの議案が提案され、審議の結果、すべて原案どおり承認された。

また、議事終了後は、事務局より4つの事項について報告がなされた。

提出議案及び報告事項については、以下のとおり。

### 〈提出議案〉

- ・ 第1号議案：令和4年度上半期事業報告並びに一般会計・特別会計収支について
- ・ 第2号議案：令和4年度一般会計収支補正予算の決定について
- ・ 第3号議案：定款の一部改正について
- ・ 第4号議案：規約の一部改正について

- ・ 第5号議案：個人情報保護に関する規程の一部改正について
- ・ 第6号議案：特定個人情報等の取扱いに関する規程の一部改正について
- ・ 第7号議案：職員給与規程の一部改正について
- ・ 第8号議案：土地改良区体制強化事業実施規程の一部改正について

### 〈報告事項〉

- 1 要請活動等の状況について
- 2 令和5年度農業農村整備予算概算要求について
- 3 かごしま水土里ネット女性の会設立について
- 4 令和5年度職員新規採用について

理事からは、「農業農村整備概算要求が示されているが、予算が確実に措置されるよう、今後も農林水産省や関係国会議員等への要請活動を行ってほしい」等の意見があり、今後も継続的に要請していくことが確認された。



第2回理事会 議決状況

## 令和4年度 第2回監事会及び監事監査を実施

11月30日、本会では永谷代表監事、岩切監事、堀野監事、浜脇監事が出席し、第2回監事会と第2回監事監査を実施した。



永谷代表監事の挨拶

### ■第2回監事会

会に先立ち、永谷岩男代表監事（穎娃町土地改良区理事長）より、「堀専務理事をはじめ、役職員一体となった組織運営に対し、感謝申し上げます。皆さまのご協力をいただきながら、円滑に監査が実施できるようお願いしたい」と挨拶があった。

次に、堀洋一郎専務理事が、監事の方々の出席に対してお礼を述べ、「上半期は昨年を引き続きコロナ禍であったが事業活動及び組織・財務の運営については、おおむね事業計画に基づいた運営ができており、本会の財政基盤を支える受託事業については、今年度も目標額を達成する見込みである。

先般公表された、令和5年度政府予算概算要求では、農業農村整備事業関係予算は、前年度比18.4%増の5,273億円を要求しているが、予算が確実に確保され、地方の実情に応じた優先度の高い施策に予算を集中してもらえよう永谷代表監事、岩切監事にご同行いただき、農業農村整備の集いへの出席と関係国会議員へ要請活動を行ったところである。

これから年度末に向けて、役職員一体となって適正な組織運営や事業活動を展開し、会員の皆さまや地域発展のために貢献してまいります」と挨拶した。

続いて、次の3つの議案について審議が行われ、原案どおり承認された。

### ○議案

- ・第1号議案 監査細則の一部改正について
- ・第2号議案 令和4年度第2回監査の実施計画について
- ・第3号議案 令和4年度第2回監査結果について

### ■第2回監事監査

監事会で監査細則の一部改正及び監査実施計画を承認後、監事会を一時休会し、監事監査が実施された。

本会の担当部署が組織・運営や会計に関する事項を説明し、監査を受けた。監査終了後は監事全員で監査簿のとりまとめ、監査結果について協議が行われた。

その後、監事会が再開され、永谷代表監事より、「業務の執行は、事業計画に基づいて適切に行われている。また、一般会計・特別会計ともに予算書に基づき執行がなされ、関係諸帳簿、金銭出納処理は正確かつ適正である」との総評があった。

最後に、堀専務理事が監事会・監査の実施についてお礼を述べ、「下半期においても業務の効率化を図りながらなお一層経費節減に努め、農業農村整備事業の推進に努めてまいります」と挨拶し、監事会と監事監査を終了した。



組織・運営等に関する監査の様子





## 令和4年度 土地改良区連絡会議を開催



安藤会長挨拶

各地域の要望や課題等を集約し、問題解決に向けた具体策の検討を協議するとともに、各地域の実情に応じた活動を連携して展開していくことを目的としている土地改良区連絡会議が、11月8日、土地改良区各地域連絡会議の代表委員等7名、県農地整備課3名、本会役職員等16名の出席のもと、県土地改良会館で開催された。

はじめに、安藤和文会長（笠野原土地改良区理事長）が出席へのお礼と、「コロナ禍での業務運営継続の苦勞に加え、物価高騰、中でも電気料金高騰は、用排水機場等を管理する土地改良区の運営への影響が懸念される。土地改良区は人材不足や施設の老朽化など多くの課題を抱えており、さらには本格運用が始まった複式簿記会計や、期限内の目標達成に向けた女性理事登用にも取り組まねばならない。本日は、そのような課題に対する具体策の検討など、実のある議論の場としたい」と挨拶した。

次に、「令和5年度農業農村整備事業関係予算概算要求について」、「電気料金高騰に対する土地改良区支援について ほか」、「土地改良区地域連絡会議の開催状況について」、「かごしま水土里ネット女性の会（仮称）の設立について」の情勢報告が行われた。

その後、以下のとおり協議が行われた。

### 1.男女共同参画の推進に向けた取り組みについて

・九州農政局、県農地整備課、本会で構成される「土地改良区運営基盤強化協議会」において設定された、各土地改良区の取り組みを支

援するための行動指針等を説明。

### 2.県内土地改良区の女性理事登用状況について

・令和3年度土地改良区運営実態等調査結果を基に本県女性理事登用の現状について説明。

### 3.各地域の男女共同参画に向けての現状と課題について

・女性理事登用に向け、各地域から事前に集約した現状と課題について、事務局が要旨を説明。また、今後の登用に向けた具体的な取り組み内容を記載したフローと、農林水産省作成の手引きを用いて、検討内容を提案。

### 4.男女共同参画の推進について（意見交換）

女性理事登用に向けて土地改良区内で協議が行われるなど前向きな取り組みも見られ、「実際に女性理事を登用している土地改良区の具体的な話を参考にしたい」等の意見が出された一方で、「女性組合員が少なく、登用するには女性を増やす必要があるが、高齢化の影響もあり現状難しい」との意見もあった。また、「登用に向けては土地改良区内で理解を得ることと、女性にも理解をいただくことが最優先事項」、「土地改良区の現状を把握した上で良い方向に進めるよう取り組まなければならない」など、継続的な取り組みにしていかなければならないとの指摘もあった。事務局は、「まずは、女性理事を員内、員外どちらで登用するかの検討や、女性候補者を見つけるところから始めてみてはどうか」との具体策を提案した。

最後に、安藤会長が、各地域における女性理事登用の取り組み推進を強化してもらうようお願いし、本会議は終了した。



会議の様子



## 各事業推進協議会と合同で要請活動を実施



野村農林水産大臣への要請

本会では、10月24日から25日にかけて、農林水産省、財務省、国会議員に対し、令和5年度農業農村整備事業の施策等に関する要請活動を、鹿児島県、鹿児島県農業農村整備事業推進協議会、鹿児島県国営土地改良事業推進連絡協議会、鹿児島県水土里サークル活動支援協議会と合同で行った。

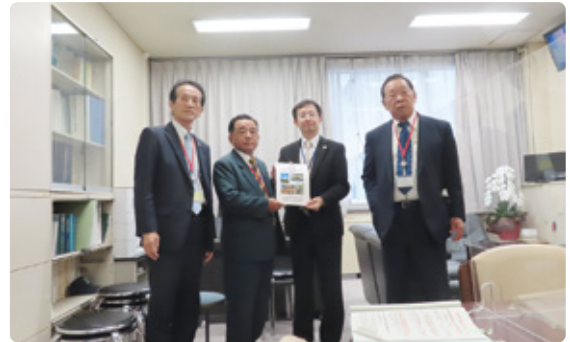
はじめに、農林水産省への要請を行った。



青山農村振興局長への要請



安部農村振興局次長への要請



青山整備部長への要請

続いて、財務省主計局への要請を行った。



河口主計官への要請

また、10月25日は、県選出国会議員への要請活動を行った。



森山衆議院議員への要請



宮路衆議院議員への要請



要請内容は、以下のとおり。

**我が国の食料供給基地として「食料安全保障の強化」と「農業農村の持続可能な成長」を推進します。**

当県農業を支える基盤づくりとして、農業農村整備事業では、

- 農業の高付加価値化を推進する競争力強化対策や担い手への農地の集積・集約化
- 自然災害の激甚化や施設の老朽化に対応する国土強靱化対策
- 農業・農村の多面的機能の維持・発揮のための地域共同活動への支援

を重点施策に位置づけて推進しており、将来にわたり農業を持続的に発展させていくためには、今後とも農業農村整備事業を計画的かつ強力に推進する必要があります。

このため、財政支援の充実などについて次のとおり提案・要望します。

令和4年10月

## 《提案・要望の内容》

### 1. 農業農村整備事業の推進

- ①収益性の高い営農の実現や低コスト化に向けた規模拡大のための基盤整備、施設の長寿命化を図るストックマネジメントなどの農業農村整備事業が、計画的に推進できるよう必要な当初予算を安定的に確保すること
- ②防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策における、ため池や農業水利施設等に係る国土強靱化の取組が確実に実施できるよう、必要な予算を十分に確保すること
- ③農業生産等において重要な役割を担う中山間地農業を後押しする中山間地農業ルネッサンス事業の十分な予算枠を確保すること

### 2. 国営かんがい排水事業の推進

国営附帯県営事業を含めた大規模畑地かんがい事業の着実な推進が図られるよう、必要な予算を確保すること

### 3. 多面的機能支払交付金の推進

- ①地域共同活動による取組面積の維持・拡大に必要な予算を十分に確保すること
- ②経費については、事業を推進するための経費を含め、基本的に国庫負担とすること

要望とあわせて、鹿児島県が作成した農業農村整備事業の効果事例をまとめた「かごしまの農業農村」のポイントを説明し、本事業が果たす役割や必要性を訴えた。

効果事例集の内容は以下のとおり。

#### ○農業の成長産業化 編

##### 【農業競争力強化基盤整備事業】

- ・安定した農業用水を確保し、新規就農者が増加（日置市吹上町）
- ・計画的な水利用で生産性の向上と農業経営の安定を目指す（鹿屋市・肝属郡肝付町）

#### ○国土強靱化 編

##### 【農村地域防災減災事業】

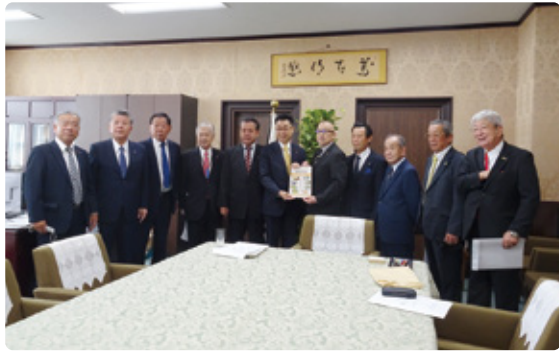
- ・防災・減災対策を契機とした地域防災力の強化（垂水市）
- ・排水路の新設により農地等の浸水被害を防止（熊毛郡南種子町）

#### ○多面的機能 編

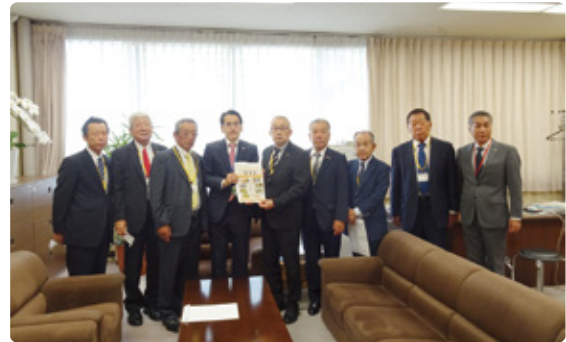
##### 【多面的機能支払交付金】

- ・地域共同で農村の多面的機能の維持・発揮を！（伊佐市 木ノ氏地域環境組合）

## 九州農業農村整備事業推進協議会及び 土改連九州協議会が要請活動を実施



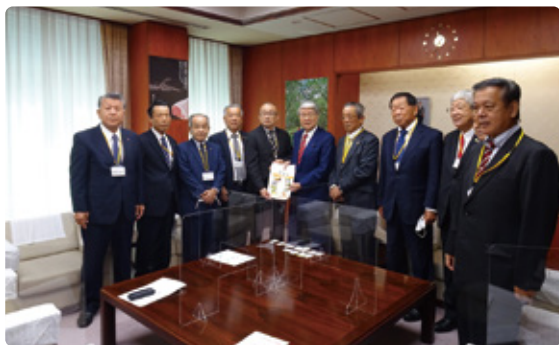
秋野財務副大臣への要請



青山農村振興局長への要請

10月21日、令和5年度の農業農村整備事業予算を確保するため、「九州・沖縄地域における農業農村整備事業の強力な推進に向けて」をテーマに、九州農業農村整備事業推進協議会及び土改連九州協議会が要請活動を実施した。本会からは、宮路高光会長と堀洋一郎専務理事ほか職員が参加し、農林水産省、財務省への要請を行った。

はじめに、財務省へ伺い、秋野公造・財務副大臣をはじめ、政務三役及び主計局事務方に要請した。



野村農林水産大臣への要請

続く農林水産省への要請では、野村哲郎・農林水産大臣をはじめ、青山豊久・農村振興局長、安部伸治・農村振興局次長、青山健治・整備部長に要望を行った。また、政務三役、大臣官房、農村振興局、農村政策部、整備部には、九州協議会の会長県である佐賀県と、副会長県の福岡県が、個別に持ち回りで要請を行った。



青山整備部長への要請

要望内容は、以下のとおり。

- 1 令和5年度農業農村整備事業概算要求額の満額の予算措置、並びに九州・沖縄地区への重点配分
- 2 食料自給力の維持・向上を含め食料安全保障の強化に係る農業農村整備事業の十分な予算措置
- 3 事業効果の早期発現に向けた令和4年度補正予算における十分な予算措置
- 4 自然災害からの復旧・復興に対する支援、並びに防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の十分な予算措置
- 5 多面的機能支払交付金の必要額の予算措置及び円滑な活動への支援
- 6 土地改良区の運営基盤強化に向けた十分な予算措置、土地改良施設の維持管理に係る電気料金等の高騰対策及び制度拡充





## 第44回全国土地改良大会 沖縄大会に参加



古謝沖縄県土連会長による開会挨拶

11月22日、沖縄県の本土復帰50周年を記念した、第44回全国土地改良大会沖縄大会が、「水土里の拓くみるく世を 鳴らしとうゆまし守禮の邦から」をテーマに、全国水土里ネットと水土里ネット沖縄が主催のもと、全国から関係者約2,300人を参集し、沖縄県沖縄市の沖縄アリーナで開かれた。本県からは36名が参加した。

オープニングセレモニーでは、東京2020オリンピック金メダリストの喜友名諒氏らが、空手の形を披露した。続いて第40代沖縄観光親善大使ミス沖縄が、沖縄県の観光地を紹介。大会旗入場、開会宣言、国歌斉唱が行われた。

開会挨拶では、水土里ネット沖縄の古謝景春会長が、出席へのお礼と沖縄県の土地改良事業の歩み、我が国が抱える農業農村の課題等に触れ、「豊かな水土里の素晴らしさを全国に向けて発信し、農業・農村の振興に向けて取り組んでまいろう」と述べた。

主催者挨拶では、全国水土里ネットの二階俊博会長が、厳しい自然条件を土地改良によって克服した沖縄の先達のご労苦や功績、全国の土地改良関係者の尽力に敬意を表した。

そして、「全国の農業を守る、農業の関係者の皆さんを支える意味で、皆で頑張ることを誓い合う沖縄大会にしよう」と挨拶。

続いて、玉城アニー・沖縄県知事と、桑江朝千夫・沖縄市長による歓迎のことば、来賓祝辞、来賓紹介、祝電が披露された。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣

表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰45名が表彰された。本県からは本会の代表監事で、顕娃町土地改良区の永谷岩男理事長が農村振興局長表彰を、始良市上名土地改良区の下鶴茂信理事長が全土連会長表彰を受賞した。

基調講演では、農林水産省農村振興局の安部伸治次長が、「夢(いみ)をつなぐ土地改良」をテーマに、沖縄の農業・土地改良の歩みや土地改良をめぐる動き、未来の夢に向かった取り組みについて講演した。

優良事例紹介では、農業生産法人(有)大嶺ファームの土地登代表取締役が、宮古島に世界で初めて建設された地下ダムが、永年苦しんだ水不足を解消し、安定的な水源確保で農業を飛躍的に発展させ、農業と観光を組み合わせた取り組みも生まれたこと等を紹介した。

そして、瀬名波土地改良区の當山眞市理事長は、読谷村の軍用地返還までの変革や返還後の基盤整備による農業の変遷を紹介した。

水土里ネット沖縄の職員による大会宣言の後、次期開催県紹介・大会旗引継が行われ、水土里ネット福井の山崎正昭会長が、次期開催県としての意気込みを語った。

終わりに、水土里ネット沖縄の知念武副会長が閉会挨拶をし、幕を閉じた。

11月23日は事業視察に参加し、本県は読谷村の長浜ダムを視察した。

次期大会は、令和5年10月11日にサンドーム福井(福井県)での開催を予定している。



本県参加者



## 農業農村整備の集いに参加



二階会長の挨拶

10月20日、農業農村整備の集いが、「農を守り、地方を創る予算の確保に向けて」をテーマに、全国から1,100名を超える土地改良関係者が参加して、東京都で開催された。本会からは、宮路高光会長、本坊輝雄副会長、堀洋一郎専務理事ほか、役職員7名が参加した。

はじめに、全国水土里ネットの二階俊博会長が出席のお礼を述べ、『現在、来年度予算の編成に向けた折衝が進んでいるが、農家の方々に期待を持って働いていただける環境をつくるため、十分な予算の確保に向け、一致団結していく必要がある。』

また、いよいよ男女共同参画の取り組みを本格化させていく時が来た。「土地改良区の理事の10%以上を女性にする」、「土地改良区と土地連の女性登用を推進する」という目標達成に向けて、今年から集中的に取り組んでいただくようお願いする。

「闘う土地改良」は限りなく続く。男女ともに一致団結してさらなる闘いを続けていくことをお願いする』と挨拶した。

藤木真也・農林水産大臣政務官は、農林水産業が抱える課題、ロシアのウクライナ侵略や気候変動等に伴う影響にふれ、『農林水産省としては、農林水産物・食品の輸出促進、「みどりの食料システム戦略」を踏まえた環境負荷低減の取組推進、スマート農林水産業の推進などの施策を着実に進めていく。あわせて、輸入農産物

や輸入生産資材への依存度を低くする生産構造への転換を進め、我が国の農林水産業の持続的な成長と食料安全保障の強化を図っていく。

そのために必要な予算は、来年度に向けてしっかりと要求しているところ。食料安全保障の強化や防災・減災、国土強靱化等に万全を期することができるよう、引き続き予算の確保に全力で取り組んでいく』と述べた。

次に自民党の遠藤利明・総務会長、TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部の森山裕・本部長、江藤拓・総合農林政策調査会長、武部新・農林部会長、参議院議員で都道府県水土里ネット会長会議の進藤金日子顧問が祝辞を述べた。

進藤顧問は、「これから補正予算、当初予算と並行して編成作業が続いていくが、皆さま方の思いがしっかり形になって現れるよう、電力料金補填対策、あるいは当初予算の確保などいろいろな面で、宮崎議員と力を合わせて、しっかり頑張っていくので、引き続き皆さま方のご指導をよろしくお願いしたい」と述べた。

また、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践している、萩原丈巳・水土里ネットやまなし総務課長に二階会長より感謝状が授与された。

続いて、水土里ネット福井の野坂雄二専務理事が要請案文を朗読し、全会一致で採択された。来賓紹介後、女性理事登用にいち早く取り組んでいる岩手県の及川正和・胆沢平野土地改良区理事長から事例発表が行われた。その後、参議院議員で都道府県水土里ネット会長会議の宮崎雅夫顧問より電力料金高騰、水田活用直接支払交付金の見直し、防災減災・国土強靱化について、情勢報告が行われた。

最後に、知念武・水土里ネット沖縄副会長による「ガンバロウ三唱」が行われ、盛会のうちに終了した。



## 農業農村整備優良地区コンクール 「川南地区環境保全会」が選定審査会に出席



選定審査会に臨む保全会、市、県担当者

全国水土里ネットが毎年開催している、農業農村整備優良地区コンクールの選定審査会（中嶋 康博委員長）がリモートで開催され、11月18日、事前選考を通過した「川南地区環境保全会」（いちき串木野市）が日置市の日置地域土地改良会館から審査に臨んだ。

同コンクールでは、農業農村整備事業を契機に収益力向上や担い手の体質強化が図られている地区や、農村協働力を活かした地域資源の保全管理体制強化及び美しい農村環境の創造等を通じて地域づくりに取り組む優良な地区または団体を、農業振興部門と中山間地域等振興部門の2つの部門別に表彰しており、川南地区環境保全会は中山間地域等振興部門にエントリーした。10月12日の事前選考を経て、農業振興部門9地区と、中山間地域等振興部門7地区が選定審査会へ推薦された。

川南地区は、いちき串木野市南部にある大里川左岸部に位置し、昭和初期に5～10aの小区画で整備された湿地地帯で、大型農業機械の導入が困難であった。その中で、平成20年度に開始した農地水環境保全事業により「川南地区環境保全会」が設立され、話し合い活動の中で事業導入に向けた気運が高まり、ほ場整備に向けた地元推進委員会が設立された。

併せて、ほ場整備後の営農研究を目的とした大里営農推進協議会も発足（H24）し、営農組織を経て、令和元年度に農事組合法人夢ファーム大里（以下、夢ファーム）として法人化された。

その間、基盤整備事業により農地の大区画化

が実現し、令和3年度までに26.2haの農地が集積され、大型機械導入による農作業の省力化、暗渠排水・用排水施設整備による裏作での「レタス」「大麦」の生産拡大及び品質向上が促進された。また、夢ファームでは、農作業省力化に伴い、他組織からの作業受託や、農業法人と連携した「水田レタス」の生産などに取り組み、活動の幅を広げている。

このように、農業者の高齢化や担い手農家の減少、耕作放棄地拡大が懸念されていた地域が、事業導入を契機に、行政や地域と連携した自主活動に取り組んでいる。

選定審査会では、川南地区環境保全会の木場由美子会長と、いちき串木野市農政課の藤園健司技師が、活動組織設立のきっかけや基盤整備事業導入による効果と事業後の課題、農業法人や農地中間管理事業と連携した取り組みについて説明した。また、多面的機能支払交付金制度を活用した草払いや農道等の点検・機能診断などの地域と一体化した活動の実施、農業体験型教育旅行の受け入れなど、担い手育成への取り組みを発表した。最後に、木場会長から「男性主体の組織をまとめられるか心配もあったが、『みんなでやろう』をモットーに取り組んできた。組織の方々が活動に対して協力的で本当に助かっている。また、市と情報の共有を図り、関係機関との連携を心がけている。先のことを心配するのではなく、今できることをできる人たちで、できるだけことをやりましょう、をモットーに活動を続けていきたい」と力強く締めくくった。

本審査会の審査結果は、後日発表される。



審査員との質疑応答の様子

## 第27回全国棚田(千枚田)サミット ―滋賀県高島市で開催―

10月1日から2日にかけて、「第27回全国棚田(千枚田)サミット」が、『棚田をつなぐ人のかけ橋～びわ湖を育む清流の輪～』をテーマに、滋賀県高島市で開催され、全国各地から約500名が参加した。

オープニングセレモニーでは、高島市内の団体による合唱と作文の朗読を組み合わせたオリジナルの舞台が披露され、幕を開けた。



高島市内団体による合唱

### ■1日目

はじめに、加藤正美・全国棚田(千枚田)連絡協議会会長(山形県大蔵村長)が、「全国から数多く参加いただき、全国棚田サミットが盛大に開催できることに衷心より感謝する。本サミットを契機に、今後さらに棚田への理解が深まり、全国の棚田地域が活性化され、美しい棚田が未来へ継承されることを祈念申し上げる」と挨拶した。

続いて、開催地である高島市の福井正明市長が、「棚田の美しい景観は、地域の方々の努力により維持されてきた。しかし、高齢化や担い手不足等により、景観はもとより棚田の持つ様々な機能が失われつつある。今回のサミットが、棚田地域が抱えている課題解決に向けての契機とし、我が国の農業農村の多面的な特性のひとつであり、日本の原風景ともいえる棚田が将来に渡りその保全に繋がることを期待する」と挨拶した。

さらに、開催県である滋賀県の三日月大造知事より、「本サミットを通して、全国で様々な活動を展開している皆様から多くの情報をいただ

きながら、この素晴らしい棚田を次代に引き継いでいきたい」と挨拶があった。

次に、事例発表並びに基調講演が行われた。

事例発表は、滋賀県農政水産部農村振興課の丸橋のぞみ氏より、「中山間地域の取組と活動紹介」として、耕作放棄地の解消に向けた3つの取り組みが紹介された。取り組みの成果として、企業・大学等の多様な主体と連携した協働活動や「たな友」活動により、農地や環境が保全され、地域の活気が高まったと説明があった。

基調講演では、山路永司・棚田学会会長(東京大学名誉教授)が、『棚田地域の保全と継承』と題し、棚田の保全と継承のためには農作業効率を上げることが必要と指摘し、その解決策となる、棚田の美しさを維持した基盤整備や農業のスマート化の取り組みについて紹介した。

その後、4つの分科会が開催され、本会担当者は「棚田を見守る”人”が芽生える～関係人口の創出と外部との連携～」に参加した。

分科会では、集落住民だけでは難しくなった棚田の保全に向けて、都市住民や企業等の外部の人々と連携を図った取り組みについて討議された。

### ■2日目

現地見学会が開催され、つなぐ棚田遺産に選定されている「鵜川の棚田」を見学した。

「鵜川の棚田」は、山の麓から琵琶湖に向かって連なっている棚田であり、棚田と琵琶湖の距離が非常に近く、約500枚の棚田がある。また、棚田の中央を鉄道が走っている。

この棚田では、耕作放棄地解消のためにオーナー制度を実施する等、維持・保全に取り組んでいた。

次のサミットは、令和5年11月18日から19日にかけて和歌山県那智勝浦町で開催される予定となっている。





## 水土里サークル活動シンポジウムが開催



宮路会長による挨拶

10月26日、鹿児島市の宝山ホールにおいて、県内で多面的機能支払交付金事業（以下、水土里サークル活動）に取り組む市町村や組織を対象としたシンポジウムが開催された。過去2年間は新型コロナウイルスの影響により開催できなかったため、3年ぶりの開催となり、関係者ら約500名が参加した。

はじめに、鹿児島県水土里サークル活動支援協議会の宮路高光会長が、「県内各地で活動に取り組まれている皆さまにご参加いただき、感謝申し上げます。農村地域では、過疎・高齢化に伴う集落機能の低下が懸念されており、地域ぐるみで活動を行う『水土里サークル活動』は極めて重要な取り組みである。本協議会としても、継続的な取り組みやさらなる充実・強化を図り、市町村及び活動組織への支援を展開してまいります。

本日のシンポジウムが、実り多いものとなるよう祈念する」と挨拶した。

続いて、鹿児島県の松園英昭・農政部長が、日頃の農業農村振興への理解と協力に対する謝意を表し、「本県の農業農村を取り巻く環境はさまざまな課題に直面している。一方で、全国的に農村の価値や魅力が見直されてきており、田園回帰の機運が高まりつつある。

今回のシンポジウムが実り多いものとなり、水土里サークル活動がますます発展するとともに、本日ご出席の皆さまのご健勝を祈念する」と挨拶した。

来賓挨拶では、堀之内芳平・かごしま農業農村整備・水土里の会会長が「コロナ禍ではあるが3年ぶりの開催となり、多数のご列席の下に盛大に開催されることに心からお喜び申し上げます。今後とも関係機関、団体の推進の下、水土里サークル活動が益々発展することを祈念する」と挨拶した。

### ■ 基調講演

基調講演では、社会福祉法人白鳩会の中村邦子常務理事が、「(社福)白鳩会の農福連携の取り組み」と題して講演を行った。

白鳩会は障害者への支援を行っている福祉事業所であり、生活介護事業と就労支援事業の2つの事業を展開している。今回の発表では、働くことで自立していくことを目指した就労支援に関する「花の木農場」での事例が紹介された。

農業は細分化でき、それぞれ個々の人に合わせた作業を担当してもらえることが福祉に向いていること、耕作放棄地の解消や、地域活動への参加で集落の活性化が図られるなどのメリットがあることを説明した。



中村氏による講演

続いて、鹿児島県水土里サークル活動支援協議会事務局より、活動時の事故発生防止と保険加入、SDGs(持続可能な開発目標)について情報提供を行った。

シンポジウム後半には、県内の3組織が、それぞれ取り組んでいる活動について事例を発表した。



### ■まえのはま水・土・里保存会（鹿児島市）

はじめに事例発表をした、鹿児島市喜入前之浜町で活動を行っている『まえのはま水・土・里保存会』は、令和4年度から農業者を中心に水土里サークル活動に取り組んでおり、構成員の所有するトラクターモアの有効活用など保全活動の省力化を試みている。

また、「コスモス祭り」や地域の伝統芸能である「チヨイのチヨイ踊り」を次世代に引き継ぐことで、農村文化の伝承を図っている。

今回の発表は、「組織発足の経緯とその背景」について発表を行った。



まえのはま水・土・里保存会の事例発表

### ■寺之門部落自然を守る会（西之表市）

続いて事例発表を行った、西之表市で活動している『寺之門部落自然を守る会』では、土地持ち非農家や不在地主と連携して、農地の保全や耕作放棄地解消に向け積極的に取り組んでおり、学校や子供会、老人クラブと連携し、景観形成の一環としてヒマワリやコスモスの植栽等を行っている。

また、豊年祭では、集落青壮年団を中心に農村文化の歌や踊りの伝統の継承を図っている。

今回の発表では、「集落の美しい農村景観を守ろう!」をテーマに、遊休農地の解消及び農村文化の継承について発表を行った。



寺之門部落自然を守る会の事例発表

### ■和泊町広域協定（和泊町）

最後に発表した、『和泊町広域協定』は、「えらぶゆり咲く「和のまち」和泊町 未来へつなぐ地域資源」と題して、広域協定設立について事例発表を行った。

広域協定により、機械やオペレーターの有効活用が図られたほか、農村文化継承によるコミュニティの強化や景観形成活動を通じて、高齢者と子どもたちの接する機会が増えたことで、農家だけでなく集落全体で農村環境保全に対する意識強化が図られたため、集落の活性化につながったとの説明があった。



和泊町広域協定の事例発表

シンポジウム出席者からのアンケートには、「基調講演は素晴らしかった」、「大変勉強になった」との意見が寄せられたほか、「若い新規参加者のための用語説明を載せるのはどうか」、「リモートでの開催を希望」といった要望が寄せられた。

本協議会では、このような意見を参考にしながら、今後も水土里サークル活動の推進を図っていきたい。



## 九州「農地・水・環境保全」フォーラムin大分が開催



主催者を代表して挨拶する義経会長

11月1日、九州「農地・水・環境保全」フォーラムin大分（主催：ふるさと環境フォーラム・九州連絡会）が「みんなで築き描こう明るい農業・農村の“未来予想図”を」をテーマに、大分県大分市のJ:COMホルトホール大分で開催され、多面的機能支払交付金事業に取り組む、九州・沖縄各県の活動組織や行政、関係団体等から約550名が参加した。

本フォーラムは、多面的機能支払交付金の活用により、農業・農村の有する、自然・景観・生態系などの多面的機能を地域全体で保全・継承する地域活動を広く情報発信するとともに、九州地域の活動組織間の連携強化と情報の共有を図ることを目的として、平成20年度から毎年開催されている。

はじめに、同連絡会の義経賢二会長が来賓及び各県からの参加者にお礼を述べた後、本フォーラムの開催趣旨を説明し、挨拶した。

続いて、九州農政局の宮崎敏行局長、大分県農林水産部の佐藤章部長及び全国水土里ネットの室本隆司専務理事より、挨拶と祝辞が述べられた。

### ■事例発表

事例発表では、大分県の小田原地域保全会、佐賀県の大井地区環境保全会、沖縄県の糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会、鹿児島県の東串良町南部みどりサークルの4組織

が事例発表を行い、組織の広域化や景観形成、水質保全、遊休農地対策に関する事例について紹介があった。

本県の東串良町南部みどりサークルは、オオバナミズキンバイやオオフサモの除去活動等の外来種対策や、農業委員会と連携した営農活動による遊休農地対策について、事例の紹介を行った。



東串良町南部みどりサークルによる事例発表

### ■基調講演

基調講演では、大分県宇佐市の住職の平田<sup>ひらた</sup>崇英氏より、「農村と環境保全～宇佐の世界かんがい施設遺産 広瀬井路、平田井路を通して～」という演題で、広瀬井路開発に取り組んだ偉人たちについて説明があった。



平田氏による基調講演

最後に、来年度開催予定の熊本県を代表して、荒木泰臣・熊本県多面的機能支払推進協議会会長が閉会の挨拶を述べ、フォーラムは盛会のうちに幕を閉じた。

# 未来へつなごう!ふるさとの<sup>みどり</sup>水土里子ども絵画展2022 本県児童が入賞

10月6日と7日に、「未来へつなごう!ふるさとの<sup>みどり</sup>水土里子ども絵画展2022(旧:「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展)」の審査会が東京都で行われ、今年度の応募作品2,993点の中から、入賞6点、企業賞25点、入選126点、地域団体賞44点、佳作203点が選ばれた。本県からは46点の応募があり、企業賞3点、入選3点、佳作5点が選ばれた。

同展は、子どもたちの絵画を通じて、子どもから大人まで、ふるさとのすばらしさを認識し、「田んぼや畑」「農業用水路」などの風景から農業・農村への関心を高めてもらうとともに、広く国民にも農業・農村の魅力を伝えることを目的に毎年開催されており、今年度から名称を変更して開催することとなった。

本県の入賞作品及び入賞者のコメントは次のとおり。

## 【ふるさとが、好きだ賞】



「お田植え祭り～豊作を祈って～」  
中野 心百合 (鹿児島市立伊敷小 4年)

絵を描いているときの楽しい気持ちが伝わるといいなと思って描きました。工夫したところは、牛の毛を1本ずつ丁寧に描いたり、後ろの観客がさまざまな動きをしている様子をたくさん描いたりしたところです。牛の顔は黒色を少しずつ変えて着色するところが難しかったです。牛の飾りをカラフルに塗れたところがよくできたと思います。

## 【クボタ賞】



「稲刈りの日の思い出」  
前原 れいな (鹿児島市立伊敷小 4年)

全国で入賞できると思っていなかったのもうれしかったです。たくさんの方が作業しているところを、人や稲の大きさや重なりに注意して描くことで表現しました。稲穂や葉の色づかいが難しかったけれど、稲を持っている子どもの表情を描いたり塗ったりしたところがよくできたと思います。

## 【日本政策金融公庫農林水産事業本部長賞】



「新米どうか？」  
桐木平 希 (南九州市立大丸小 5年)

大切に育ててきたお米がようやく実ったうれしさが伝わればいいなという気持ちで描きました。実を触って確かめている手、指が丁寧に描けたと思います。米を一粒ずつ丁寧に色を塗るところが大変だったけれど、お米がたくさん実って豊作になった喜びが分かるように工夫して描きました。





また、本県の入選及び佳作の受賞者は以下のとおり。

## 《入選》

- ・ 田んぼの風景  
乗越 優杏（鹿児島市立伊敷小 4年）
- ・ 今年も豊作だ  
森下 碧空（鹿児島市立伊敷小 4年）
- ・ 田んぼで遊ぶアヒルとカルガモ  
前岡 咲月（鹿児島市立石谷小 4年）

## 《佳作》

- ・ たくさんお米がみのったよ  
乗越 美季（鹿児島市立伊敷小 2年）
- ・ お田うえまつり たのしいな  
中野 心々音（鹿児島市立伊敷小 2年）
- ・ ずっと見守る自然  
辻 琉愛（鹿児島市立石谷小 6年）
- ・ でっかいきゅうり  
中原 彩絢（南九州市立大丸小 1年）
- ・ おいしいお米をありがとう  
新盛 心優（曾於市立深川小 3年）

なお、入賞作品は全国水土里ネットのホームページ（<https://www.inakajin.or.jp/>）でも紹介している。

表彰式は昨年度に引き続き中止となったが、東京都美術館ロビー階第二展示室での受賞作品及び佳作作品の展示は、予定どおり12月4日から11日まで行われ、1,500名の来場者が受賞した作品を観覧した。



展示会の様子

## 令和4年度 換地計画 実務研修会を開催

11月21日、令和4年度換地計画実務研修会が県土地改良会館において開催された。

この研修会は土地改良区体制強化事業の一環として、県内の自治体等で換地事務に携わる担当者を対象に、換地実務の理解や判例、換地関係法令の理解を目的に開催されたものである。本年度は、市町村や県、本会の換地業務に携わる職員37名が出席した。

午前中は、土地改良法手続及び国土調査法第19条第5項認証申請事務について、県農政部農地整備課用地換地係より説明があった。

午後からは、九州農政局農村振興部土地改良管理課より土地改良事業法制の沿革や直近の改正内容等について説明がなされた後、本会職員より換地理論についての説明及び換地計画原案作成演習が行われた。

換地計画原案作成演習では、従前地（工事前の土地）の情報を基に、換地（工事後の土地）の場所の選定や換地計画原案図の作成も行った。

研修会後のアンケートでは、「土地改良事業に関する法令や基礎的な説明を詳細に受け、知識の再確認ができて有意義だった」、「演習もあり、より実践的でわかりやすかった」等の意見が寄せられた。



住民説明会を想定した発表の様子

## 令和4年度 標準積算システム 運用説明会を開催



説明会の様子

「標準積算システム」の積算基準の改定に伴う説明会を、9月29日に県土地改良会館にて開催した。説明会には、市町村や土地改良区等の実務担当者30名が参加した。

説明会では、10月から適用される令和4年度積算基準の改定内容や施工パッケージ型積算方式、標準積算システムの機能及び運用における留意事項などについて、本会職員が説明を行った。

積算基準の改定内容では、工種区分、標準歩掛・参考歩掛の改正等についての説明を行った。

施工パッケージ型積算方式については、概要や材料規格の変更等について説明した。

システムの運用では、新たな機能の説明、障害対応及び運用上の注意事項などについて説明を行った。また、次期標準積算システムは、クラウド環境に適合するシステムを運用する計画となっている旨の情報提供を行った。

参加者からは、「積算基準の改定された内容が分かった」、「運用についての説明をもう少し聞きたかった」との意見があった。

今後も利用団体へのサポート並びに情報提供に努めていきたい。

## 点群ソフト操作研修会を 開催



研修会の様子

近年、発展が著しいデジタル技術を活用した生産性向上の取り組みとして、ICTを活用した情報化施工や3次元データの活用が進んでいる。農業農村整備事業分野においても、その効用が期待されている。鹿児島県農政部では、「鹿児島県農業農村整備事業ICT活用工事試行要領」を策定し、令和4年10月1日から施行されたところである。このような情勢を受けて、本会では、本年度より点群処理ソフト及び3Dモデル作成ソフトを導入し、ほ場整備を主とする設計業務に利活用するとともに、3次元モデルによる地元説明会の開催などの取り組みを進めることとしている。

現段階においては、3次元設計に精通した技術者の早期育成が課題であることから、本会実務担当者及び県担当者を対象に、点群ソフト操作研修会を開催した。

研修会では、点群処理ソフト(TREND-POINT)及び3Dモデル作成ソフト(TREND-CORE)の操作の習得を目的に、外部講師による基本操作・各種機能などの操作演習を終えた後、3次元データの今後の利活用等についての意見交換を行った。

今後は、人材育成とともに、設計・施工・維持管理と一連のプロセス全体での効率化・高度化や、各段階で得られたデータのスマート農業への活用など、農業農村整備事業におけるデジタル技術の活用を推進していきたいと考えている。



## 令和4年度 鹿児島県水土里情報システム運用説明会を開催



説明会の様子

本会では、11月17日に県土地改良会館において鹿児島県水土里情報システム（以下、MK-Maps）を導入している団体を対象に、運用説明会を開催した。説明会には、市町村や土地改良区等の実務担当者37名が参加した。

説明会では、MK-Mapsの管理システムの活用事例として、地域計画（人・農地プラン）の策定におけるシステムの活用や、モバイルパソコンを使用した現地調査での操作方法などを紹介した。

また、MK-Mapsの情報提供ツールの運用の場として設置している専用サイト「Mapサーバー」の紹介では、一般サイトで閲覧できる情報や会員専用サイトからダウンロード可能なデータなどについて説明を行った。

そして、さらなる利活用を図るため、利用団体への保守サポート内容を説明し、利用者の要望に応じた個別研修会や、地籍図などの各種データの更新等について紹介した。

最後に、本会が行っているデジタルオルソ画像共同更新事業についての説明を行った。

参加者からは、「活用事例が参考になった」、「今後の実務に活用したい」等の声が聞かれた。

今後も利用団体へのサポート並びにシステムの利活用が促進されるよう努めたい。

## 県内各地で施設補修技術研修会を開催



室内研修の様子(長島町)

地域で農地や農業用施設の保全活動に取り組んでいる農業者団体等の支援を目的に、市町村・土地改良区及び水土里サークル活動組織を対象として、土地改良施設の補修技術に関する研修会を開催した。

研修会は、中山間ふるさと水と土保全対策事業の一環として、本会職員が講師を務めて実施した2地区と、本会に事務局を置く水土里サークル活動支援協議会が市町との共催により実施した1地区で行われ、内容は以下のとおり。

### ■開催状況

- ・中山間ふるさと水と土保全対策事業関係
  - ①東串良町：9月29日 19名出席
  - ②長島町：10月5日 43名出席
- ・水土里サークル活動支援協議会関係
  - ①南九州市：11月9日 67名出席

参加者からは「大変参考になった」、「農道の軽微な補修等についても教えてほしい」等の意見が聞かれた。

本会では、最新の情報を取り入れながら研修会のさらなる充実を図るとともに、今後も情報提供及び安全管理等への啓発を行い、地域資源の適切な保全活動を支援していくこととしている。



## 令和4年度 第3回技術力向上職員研修会を開催

10月18日から21日までの4日間、志布志市において本会の若手職員9名を対象に、水田ほ場整備実施設計の技術力強化を目的とした第3回技術力向上職員研修会を開催した。

本研修会は、6月21日から24日に志布志市森山の岩下団地で行った「第1回技術力向上職員研修会」で課題となった、「測量実践」と「縦断計画」に重点を置き、前回作成した計画案を基に、測量～平面設計～縦断計画～法図作成～現地への計画図復元までを実践した。

まず、1日目は室内で縦断図作成のポイント・留意点について説明が行われた。その後、現地で作業内容の確認と前回作成した計画案を基に、道路・用排水路の縦断計画の検討を行った。

また、本会の堀洋一郎専務理事が講師となり、事業計画における各種協議の重要性について講義が行われた。



現地確認状況



堀専務理事による講義

2日目は前日に現地で検討した縦断計画に基づき、各班に分かれて縦断図、法図作成を行った。作成にあたっては、道路の取付高や用排水路の高さ、縦断勾配等について設計基準等を確認しながら、手書きで作成を行った。指導担当職員は各班を回りながら、取付高や縦断計画の着目すべきポイントや留意点等の指導を行い、理解を促した。

平面から3次元へのイメージを持つために手書きで作業を行ったが、受講者は作成工程の難しさを痛感した様子であった。



図面作成の様子

また、本会の進めるUAVを活用した3次元測量についての研修もあり、受講者からは「実際に現場で利用できれば効率化につながる」、「実際にUAVで測量を行えば、正確性なども上がっていくと思う」等の意見があった。



UAVを活用した3次元測量研修の様子



## 活動情報

3日目は、午前中に中山間地域総合整備事業により整備が行われた栗ノ木団地で、現地実習が行われた。各班、与えられた課題について調査を行い、ほ場整備の考え方や設計で注意すべきポイントについて確認を行った。



現地実習の調査状況

午後からは岩下団地で、2日目に作成した法図を基に丁張り設置を行った。丁張り設置は、各班で作成した法図から境界と計画高さを現地に復元し、横断面を3次元化することで、設計をイメージしやすくするために試験的に実施した。丁張り設置は初めての試みだったので、受講生と指導担当職員が一緒になり作業を行った。自分たちが設計した道水路の法が現況農地にどれくらい入り込んで農地面積が減歩するか等を確認できた。

受講者からは、「初めて丁張りを行ったが、実際に平面図を3次元に立体的にすることでよりイメージがしやすくなった」等の意見があった。



丁張り設置状況

4日目は、前日に行った現地実習の課題に対する調査結果の取りまとめと発表が行われ、指導担当職員より講評が行われた。



課題発表状況

また、前日の丁張り設置の際に撮影した写真から断面図の作成を行った。各班で作成した法図通りに復元ができており、断面図についても想定以上の成果となった。

最後に、本会の吉住紀隆・農村整備課長が閉会の挨拶を述べ、研修会は終了した。

今回の研修は、水田ほ場整備の基本設計技術の習得を行い、縦断図作成や法図作成、3次元化へのイメージを掴むことを目的として行ったが、水田ほ場整備の基本設計のポイントや基礎知識を学ぶだけではなく、各班に現地踏査の課題が設定されるなど、各自で考えて取り組む内容となっていた。

また、丁張り設置など試験的な試みも行ったが、成果も良好で参加者からも好評だった。

今後も技術や知識を着実に身につけ、地元で信頼される技術者を育成するために、本会では、若手職員を対象とした研修会を継続的に実施することとしている。



## 令和4年度第2次補正予算が成立、令和5年度当初予算概算が閣議決定

令和4年度第2次補正予算が12月2日に成立した。また、政府は、令和5年度当初予算概算を12月23日に閣議決定した。

農林水産関係第2次補正予算については、物価高騰等による影響の緩和や食料安全保障の強化に向けた構造転換などを進めるため、総額8,206億円が措置された。

食料安全保障構造転換対策では、今までの取組に加えて、肥料の備蓄、下水汚泥資源等の利用拡大といった肥料対策や、生産資材の利用効率の向上につながる新品種の開発、畑作物の本作化による麦・大豆等の生産拡大など、海外依存リスクが高い構造からの転換に向けた対策が新たに盛り込まれ、1,642億円が計上された。このうち農業農村整備事業には、畑作物の本作化対策として400億円が充てられている。

このほか、農業農村整備事業予算では、「国際競争力のある産地イノベーションの促進」の「水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の推進（公共）」に512億円、「草地整備の推進（公共）」に35億円、「次世代を担う経営感覚に優れた担い手の育成」の「農地の更なる大区画化・汎用化の推進（公共）」に213億円、「防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進」の「農業水利施設、ため池等の対策（公共）」に817億円、「畑作物の本作化対策（一部公共）」に100億円（農業農村整備400億円のうち、300億円はTPP等関連と重複）など、総額1,677億円が措置された。

また、令和5年度の農林水産関係予算は、農業農村整備事業が3,323億円で、農山漁村地域整備交付金の農業農村整備分の591億円と非公共事業分の543億円を含めて、総額4,457億円が計上された。

詳細は、以下のとおり。

### 令和5年度 農林水産関係予算の骨子

総括表			
区分	4年度 予算額	5年度 概算決定額	4年度補正 追加額
	億円	億円	億円
農林水産 予算額 (対前年度比)	22,777 —	22,683 99.6%	8,206
1.公共事業費 (対前年度比)	6,980 —	6,983 100.0%	3,191
一般公共 事業費 (対前年度比)	6,780 —	6,782 100.0%	2,670
災害復旧等 事業費 (対前年度比)	200 —	201 100.6%	521
2.非公共事業費 (対前年度比)	15,797 —	15,700 99.4%	5,016

- (注) 1. 金額は関係ベース。  
 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。  
 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。



## 公共事業費一覧

区 分	4 年 度 予 算 額	5 年 度 概 算 決 定 額	4 年 度 補 正 追 加 額
農業農村整備 (対前年度比)	3,321 億円	3,323 100.1% 億円	1,677 億円
林 野 公 共 (対前年度比)	1,867	1,875 100.4%	695
治 山 (対前年度比)	620	623 100.4%	256
森 林 整 備 (対前年度比)	1,247	1,252 100.4%	439
水産基盤整備 (対前年度比)	727	729 100.3%	270
海 岸 (対前年度比)	81	81 100.0%	28
農山漁村地域 整備交付金 (対前年度比)	784	774 98.7%	-
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,780	6,782 100.0%	2,670
災 害 復 旧 等 (対前年度比)	200	201 100.6%	521
公 共 事 業 費 計 (対前年度比)	6,980	6,983 100.0%	3,191

- 注) 1. 金額は、関係ベース。  
 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。  
 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。  
 4. 農業農村整備事業関係予算は、6,134億円。その内訳は以下のとおり。  
 ・農業農村整備事業 3,323億円  
 ・農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分 591億円  
 ・非公共の農業農村整備関連事業 543億円  
 (農地耕作条件改善事業、畑作等促進整備事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業、農山漁村振興交付金)  
 ・4年度補正額(農業農村整備事業) 1,677億円

## 令和5年度農業農村整備事業関係予算概算決定の概要

(単位：億円)

事 項	令和4年度 当初予算額	令和5年度 概算決定額	令和4年度 補正予算額	合計
		A	B	A+B
農業農村整備事業<公共>	3,321	3,323 (100.1%)	1,677	5,000 (150.5%)
農業農村整備関連事業<非公共> ( 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 畑作等促進整備事業 農山漁村振興交付金 )	540	543 (100.6%)	-	543 (100.6%)
農山漁村地域整備交付金<公共> (農業農村整備分)	591	591 (100.0%)	-	591 (100.0%)
合 計	4,453	4,457 (100.1%)	1,677	6,134 (137.8%)

- (注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。  
 2. 下段( )書きは令和4年度当初予算額との比率である。

## 農業農村整備事業関係予算の概要

### ◆令和5年度当初予算の重点事項（抜粋）

※（ ）内は、令和4年度当初予算額

#### 1.食料安全保障の強化に向けた構造転換対策

- (1)畑作物の本作化対策（一部公共）  
（農業農村整備等） 150億円（140億円）  
・麦・大豆等の海外依存度の高い品目の生産拡大を促進するため、排水改良等による水田の畑地化・汎用化、畑地かんがい施設の整備等による畑地の高機能化、草地整備等を推進

#### 2.生産基盤の強化と経営所得安定対策の着実な実施、需要拡大の推進

- (1)農業の持続性の確保に向けた生産基盤の強化  
①需要に応じた生産の推進  
・水田農業での麦・大豆等の本作化への支援、高収益作物の導入・定着への計画的・一体的な支援等により、需要に応じた生産を総合的に推進  
ア 水田農業の高収益化の推進（一部公共）  
（農業農村整備事業） 3,323億円の内数  
（3,321億円の内数）  
・高収益作物の導入・定着を図るため、国、地方公共団体等が連携し、水田での高収益作物への転換、水田の畑地化・汎用化のための基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路の確保等を一体的に推進
- (2)畜産・酪農の生産基盤の強化  
①草地関連基盤整備（公共） 3,323億円の内数  
（3,321億円の内数）  
・畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する飼料生産の基盤整備等を推進

#### 3.農地の効率的な利用と人の確保・育成、農業農村整備

- (1)競争力強化・国土強靱化のための農業農村整備の計画的な推進  
①農業農村整備事業（公共） 3,323億円  
（3,321億円）  
・農地の大区画化や畑地化・汎用化、農業水利施設の適切な更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、ため池の防災・減災対策、農業用ダムへの洪水調節機能強化や田んぼダムの取組拡大、農道、集落排水施設の整備等を推進
- ②農地耕作条件改善事業 200億円  
（248億円）  
・農地中間管理機構による農地の集積・集約化、麦・大豆や高収益作物への転換を推進するため、機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、農地の区画拡大や排水改良等を支援
- ③農業水路等長寿命化・防災減災事業 282億円  
（254億円）  
・農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能を安定的に発揮させるため、機動的・効率的な長寿命化・防災減災対策を支援
- ④畑作等促進整備事業 20億円  
（－）  
・麦・大豆等の生産拡大を推進するため、畑作物・園芸作物が生産される地域を対象に、暗渠排水等の基盤整備をきめ細かく機動的に支援
- ⑤農山漁村地域整備交付金（公共） 774億円  
（784億円）  
・地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤

整備や農山漁村の防災・減災対策に必要な交付金を交付

#### 4.農山漁村の活性化

- (1)日本型直接支払の実施  
①多面的機能支払交付金 487億円（487億円）  
・農業・農村の多面的機能の維持・発揮や地域全体で担い手を支えることを目的として、農用地、水路、農道等を適切に保全管理するために農業者等が地域共同で行う活動を支援
- (2)中山間地域等の活性化  
①棚田地域の振興  
（農山漁村振興交付金） 91億円の内数（98億円の内数）  
（中山間地域等直接支払交付金） 261億円の内数  
（261億円の内数）  
・棚田地域振興法に基づく棚田の保全・振興に向けたモデル的な取組や、景観保全等の環境整備を支援

### ◆令和4年度第2次補正予算の重点事項（抜粋）

#### 1.食料安全保障の強化に向けた構造転換対策

- ①畑作物の本作化対策（一部公共）  
農業農村整備 400億円  
・水田の畑地化や畑地化後の畑作物の定着までの一定期間の支援のほか、畑作物の産地づくりに向けた関係者間の調整や土地改良区の地区除外決済金等を支援  
・麦・大豆等の海外依存度の高い品目の生産拡大を促進するため、排水改良等による水田の畑地化・汎用化、畑地かんがい施設の整備等による畑地の高機能化、草地整備等を推進

#### 2.「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施

- (1)国際競争力のある産地イノベーションの促進  
①水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の推進（公共） 512億円  
・高収益作物を中心とした営農体系への転換を促進するため、排水改良等による水田の畑地化・汎用化や、畑地かんがい施設の整備等による畑地・樹園地の高機能化等を推進
- (2)畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進  
①草地整備の推進（公共） 35億円  
・畜産クラスター計画を策定した地域での効率的な飼料生産に資する草地整備を推進
- (3)次世代を担う経営感覚に優れた担い手の育成  
①農地の更なる大区画化・汎用化の推進（公共） 213億円  
・担い手への農地集積・集約化を加速化して米の生産コストの大幅な削減等を図るため、農地の大区画化や排水対策、水管理の省力化等を推進

#### 3.防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進

- (1)防災・減災、国土強靱化の推進  
①農業水利施設、ため池等の対策（公共） 817億円  
・農業用ダムへの洪水調節機能の強化や田んぼダムの取組を推進するほか、農業水利施設等の安定的な機能発揮、老朽化対策及び豪雨・地震対策、防災重点農業用ため池の防災工事等を推進



# お知らせ

## 「令和4年度 電力価格高騰対策土地改良区緊急支援事業」の創設について

「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」の制度要綱の改正が昨年9月に施行され、土地改良区における農業水利施設の電気料金高騰分に対し、一定割合を支援することが明記されました。

これを受けて、本県でも電力価格高騰分の一部を支援し、土地改良区の運営経費等の負担軽減を図るため、標記事業が創設されました。

事業概要は、県内各地域で開催された県農政部農地整備課による説明会のとおりですが、現在、本会において申請を受け付けていますので、希望される土地改良区は、期限内にお申し込みください。

### 1. 事業内容

- 令和3年度の電力価格と比較して算定した令和4年度の電力価格高騰分の10分の5以内を支援
- 支援対象期間は、令和4年4月から12月

2. 申請手続: 所定の様式により、令和5年2月3日までに水土里ネット鹿児島に提出

3. 交付時期: 令和5年2月下旬から3月(予定)

4. 問 合 せ: 水土里ネット鹿児島 総務部 管理課 (TEL:099-223-6116)まで

## 第65回通常総会の開催について

本会では、第65回通常総会を以下のとおり開催します。会員の皆さまには、各事務所・支部を通じてご案内しますので、ご出席ください。

- 1.開催日時: 令和5年3月22日(水) 14:30~(予定)
- 2.開催場所: マリンパレスかごしま(鹿児島市与次郎2丁目8番8号)
- 3.問 合 せ: 水土里ネット鹿児島 総務部 総務課 (TEL:099-223-6111) まで

## 各地域土改連連絡協議会の開催について

次の日程で地域土改連連絡協議会を開催します。

同会議では、3月に開催する第65回通常総会提出議案の事前説明等を行いますので、ご出席ください。

地 域	開催日	開催場所
鹿児島	2月24日(金)	十八番館
南 薩	2月22日(水)	南さつま市民会館
北 薩	2月17日(金)	北薩地域土地改良会館
始良・伊佐	2月20日(月)	かごしま空港ホテル
大 隅	2月15日(水)	鹿屋商工会議所
熊 毛	2月21日(火)	ホテルニュー種子島
大 島	2月27日(月)	奄美観光ホテル

## 水土里ネットの更新情報

(設立・解散、理事長の変更等)

### ●解散

大隅町土地改良区  
認可日: 令和4年10月20日

### ●新理事長

奄美市土地改良区  
奥 輝人  
就任日: 令和4年11月9日





### 女性登用に本腰を入れて

令和3年6月発行の本コラムに、女性登用の機運を高めていかなければならないと記述した。その手始めという訳ではないが、ようやく土地改良における女性参画の促進等を目的とした「かごしま水土里ネット女性の会」の設立総会を令和4年11月11日に開催することができた。九州では6番目の設立で、全国には7月時点で既に31の組織が活動を行っており、少しばかり遅い船出とはなったが、今後の活動に期待したい。この会の会員数は、ご理解をいただいた土地改良区から26名、本会から26名の52名で、今後もさらなる会員確保に努めることとしており、気軽に参加いただければと考えている。また、年間活動についても研修や会員相互はもとより全国との情報交換等を行い、女性目線での課題や対応等について考える機会を作っていく計画である。

なお、設立総会后に引き続き、進藤参議院議員の奥様の優貴子様「私が出会った土地改良の女性たち」と題した基調講演を、また全土連の金内様に「土地改良における男女共同参画について」講演いただいた。今回は女性の会設立がメインということで、男性は参与である南薩土地改良区の東理事長や事務局の数人だったが、次回以降では土地改良区の理事長さんも参加できる研修会を仕組んでいただければと思う。まだまだ女性参画を進める環境にないという状況が多いと聞かすが、少しでも女性を登用できる雰囲気作りを進めて、各土地改良区が前向きに取り組めるようになればと考えており、そのためにも当女性の会の活動が今後活発化していくことを期待している。

ちなみに、令和5年1月24日開催の役職員研修会では、コロナの影響がなければ全土連の室本専務理事による女性登用についての話と意見交換会が熱心に行われていると思う。

### 全国土地改良大会沖縄大会に参加して

令和4年11月22日に全国土地改良大会が沖縄県で開催された。3年前の岐阜大会以来久々に全国から集まっでの開催であり、依然としてコロナ禍が続く中ではあったが、2千人を超える参加者を得て盛会裡に終わったことを心からお祝いしたい。また、沖縄県では10年前にも本大会を実施しており、次期開催が早いなと思っていたが、本土復帰50周年を記念しての大会ということで、催しものも素晴らしく、また会場も一席ずつ空けた座席が用意されるなど、かなりの配慮がなされており、沖縄県土連職員をはじめとする多くのスタッフの皆様や祝日の日もご対応いただいた関係土地改良区の職員の皆様に心から感謝したい。

本県からも36名の参加を得て、大会と沖縄本島中部から南部にかけての視察を行ったが、車中ではバスガイドさんによる、沖縄の苦難に満ちた歴史や文化についての話やビデオ放映が行われ、沖縄の現状について理解を深めるよい機会となった。特に、おばあが振り返る沖縄戦のビデオを視聴し、これがウクライナでも起きていると思うと、こうした悲劇は早くなくさないといけないと痛切に感じたところである。ロシアのウクライナ侵攻により、日本では物価高騰による食生活への影響はもとより、国土の安全保障の観点からも、また食料の自給率が低い中での安定供給という面からも、現実を見つめ直すよい機会となっている。しかし、まずは停戦である。そしてウクライナ国民の癒やしと、がれきと化した町や村の復興に一刻も早く取り組めるよう切に願うものである。

さて、令和5年度の45回大会は10月11日福井県での開催である。幸福度日本一の県と聞いている。楽しみにしつつ、来年はコロナ禍であつても通常開催となるよう期待したい。

堀 洋一郎（水土里ネット鹿児島 専務理事）  
（令和4年12月受稿）

## 会議・研修会情報

主として会員を対象とする会議・研修会等の令和5年1月10日現在の予定です。  
変更になる可能性もありますので、詳細は事前に担当課までお問い合わせください。

開催日(予定)	名称	対象	場所(予定)	問合せ先
2月8日	令和4年度 第3回理事会	役員等	県土地改良会館	総務部 総務課
2月10日	土地改良換地士部会	県、市町村、土改連等、 土地改良換地士	県土地改良会館	事業部 換地課
2月15日～27日	地域土改連連絡協議会(通常総会説明会)	会員等(各管内ごと)	各管内	総務部 総務課
2月15日～27日	土地改良区地域連絡会議	会員等(各管内ごと)	各管内	総務部 管理課
2月下旬	中山間ふるさと・水と土保全推進(棚田)事業 人材育成研修会	協議会会員、市町村、棚田 等保全活動組織等	鹿児島市	事業部 農村整備課
2月下旬	農用地利用集積推進対策会議	県、市町村、土地改良区 土改連	県土地改良会館	事業部 換地課
3月9日	中山間ふるさと・水と土保全対策事業 リーダー育成研修会	県、市町村、土地改良区、 水土里サークル活動組織	鹿児島市	事業部 農村整備課
3月22日	水土里ネット鹿児島 第65回通常総会	来賓、役員、会員等	鹿児島市	総務部 総務課
3月22日	令和4年度 第4回理事会	役員等	鹿児島市	総務部 総務課
5月中旬	鹿児島県水土里サークル活動支援協議会 幹事会	県、市町村、農業団体等	鹿児島市	事業部 農村整備課
5月中旬	鹿児島県農業集落排水事業連絡協議会 幹事会	県、市町村担当者、 土改連	鹿児島市	事業部 農村整備課
5月中旬	令和5年度 標準積算システム運用研修会	市町村、土地改良区等	県土地改良会館	水土里情報センター
5月下旬	鹿児島県水土里サークル活動支援協議会 総会	県、市町村、農業団体等	鹿児島市	事業部 農村整備課
5月下旬	鹿児島県農業集落排水事業連絡協議会 総会	県、市町村担当者、 土改連	鹿児島市	事業部 農村整備課



▼最近、「3年ぶり」という言葉をよく耳にしますが、3年ぶりに市民マラソン大会に出場しました。起伏に富んだ厳しいコースに挑み、途中歩きながら、沿道の応援を励みになんとか完走できましたが、その中で一番の楽しみはコース中の私設エイドステーション。地元の特産品も多く提供されており、農産物や海産物をPRする場となっていると実感しました。▼令和5年度農業農村整備関係予算の概算が閣議決定され、食料安全保障対策やスマート農林水産業等による成長産業化、農林水産物・食品産業の輸出力強化など、令和4年度補正予算と合わせて、6,134億円が確保されました。本会では、政策提案会や要請活動を通して会員の皆さまからの声をこれからも届けていきたいと思っております。▼あらゆる分野で、男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取り組みが進められておりますが、土地改良関係では土地改良区の女性理事登用が政府の成果目標となり、期限内に取り組みねばならない課題となっております。本会では、国や県と連携しつつ、会員の皆さまへの支援に取り組んでまいります。その中で、「かごしま水土里ネット女性の会」が令和4年11月に発足しました。まずは、相互の情報交換や交流促進を図るとともに、会員を増やすことに取り組んでいきたいと考えております。▼本年も広報誌「農業農村整備かごしま」をよろしく申し上げます。(H)

今、はじめる。まずはあなたの土地改良区から—



いざ、スタート。2025年度に向けて—  
この町の土地改良は、みんなで支え合おう

女性理事  
登用

2025年度までに  
女性理事が占める割合を0.6%→10%以上に!

農業・農村の振興を支えてきた土地改良を、次世代につなげることが我々の役目です。現代社会を生き抜くために、土地改良を担う組織にはいろいろな人材の参画が必要です。土地改良の新たな発展へ、共に進んでいきましょう。

#### 成果目標

全国の土地改良区(土地改良区連合を含む)において、2025年度までに女性理事が登用されていない組織数をゼロに。理事に占める女性の割合を10%以上に。

計画:第5次男女共同参画基本計画(2020.12)、  
土地改良長期計画(2021.3)

#### 組合員だけでなく、員外理事でもOK

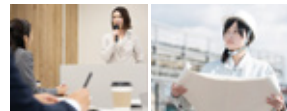
組合員からの登用が難しい場合、員外理事制度も活用できます(定款に定めれば理事定数の5分の2まで可能)。組合員のご家族、会計士、6次産業や町内会に携わっている方、他にも農業団体に役員を務めている方などの参画が期待できるのではないのでしょうか。



女性職員  
登用

#### 働く場を、再点検

これを機に、土地改良事業団体連合会も含め、改めて働く環境を見つめませんか?無意識の思い込み(お茶入れや電話取り次ぎは女性、外業は男性など)はありませんか?育児・介護制度の整備、技術や資格取得のフォローなど、できるところから改善を。誰もが活躍できる、そして人と地域に優しい土地改良へ。



全国水土里ネット・都道府県水土里ネット

#### 水土里ネット鹿児島県のロゴマーク

鹿児島のKをイメージし、「明日・農・夢」をコンセプトに新しい農村社会かごしまの創造をめざす。

中央のトラッドブルーは「人」であり、人と調和をめざし「明日」を表す。左のエメラルドグリーンは「土」であり、食料生産の場として支える大地をイメージし「農」を表す。右下のスカイブルーは「水」であり、地域との広がりや交流を表す。上部のオレンジは太陽であり、朝日が昇るさまで、「夢」を表す。

#### 表紙写真

第30回かごしまフォト農美展 入選  
小牧 三郎「梅園の春」/撮影場所:日置市東市来町







## 水土里ネット鹿児島

鹿児島県土地改良事業団体連合会  
〒892-8543 鹿児島市名山町10-22  
TEL.099-223-6111(代) FAX.099-223-6130